

出雲神話-“神が在る”地の空間-

5618009 糸賀瑛耶



◆背景

島根県出雲市は出雲大社が有名である。出雲市には400年前から伝わる出雲神楽や出雲地方が舞台の神話が古事記などの歴史書に数多く記されている。平成25年の出雲大社平成の大遷宮の時以降、参拝客等の観光客で賑わっているが、超少子高齢化で人口は減少傾向にある。そして、出雲市の課題として、①滞在力、②周遊力、③情報発信力、④事業推進力等が挙げられる。

出雲神話-“神が在る”地の空間-

5618009 糸賀 瑳耶



◆計画目的

計画目的として以下の5項目を設定した。

- ①出雲の魅力発信・ブランド化
- ②神楽の後継者問題を改善
- ③学生・地域住民・観光客をターゲットとする地域活性化
- ④観光客の滞在意欲・滞在施設の充実
- ⑤観光圏を広げるきっかけ作り

以上より、本計画は出雲の地域活性化のために、出雲神話・出雲神楽に着目し、出雲の自然や神様の存在、出雲が持つ力等、出雲でしか体感することができない美術館と宿泊施設を計画することを目的とする。

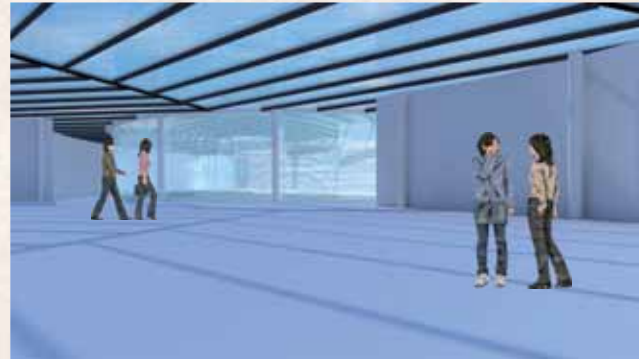
◆計画の基本方針

計画地でしか成立しない建築を計画する。

①出雲大社は平面的な強い軸だけでなく、階段という立体的な強い軸を有することを計画的に考慮する。当計画では、出雲の中では強い影響力のある出雲大社と稲佐の浜に加え、近隣の計画地周辺の神社（約半径4km）との関係を考える。

②神社の参道空間のような光と影や風を感じることでできる空間を作り、周辺の風景とも一体感を出す。

③神話・神楽とアートを融合するシステムとする。美術館は大きな部屋を壁で仕切るのではなく、各テーマによって独立した固有な空間を作る。目で見るだけでなく五感で感じることでできる空間を作る。



◆計画敷地・敷地周辺の分析

今回敷地として選定したのは、島根県出雲市の出雲神西駅からすぐ近くの北側に位置し、出雲大社に繋がるICの西側にも位置しているため交通アクセスが容易である。

この計画地の神西という地名は、大国主命の神在、または須世理姫の命の神妻から由来している。このことから、神話にゆかりのある神が滞在した場所や誕生した場所など沢山の神社が周辺にあり、出雲神話や出雲神楽を身近に感じることができる。また、八百万の神というように自然の山や川、草などなんにでも神はいるという考え方を出雲の自然で感じる事が出来る場である。



出雲神話-“神が在る”地の空間-

5618009 糸賀瑛耶

◆計画方法

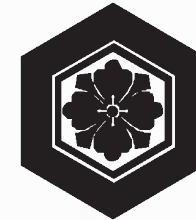
①周辺の神社と関係性をもつ多軸構成

計画地の中心と計画地周辺の神話にゆかりのある近隣の神社（約半径4km）を線で結び軸を作る。更に、出雲の中では強い軸を持っている出雲大社と稲佐の浜の軸も加える。これらによって、グリッドの軸とは異なる当敷地固有な放射線状に複数の軸が形成する。



②軸と空間の剣花菱の構成

建物の形状は、出雲大社の神紋と軸を組み合わせる。出雲大社の神紋は、二重亀甲に剣花菱である。剣花菱は天皇が皇位継承の印として受け継ぐ3種の神器（剣・鏡・勾玉）を意味することから、剣を軸、鏡を水、勾玉を部屋に見立て、2つの空間要素を交互に構成する



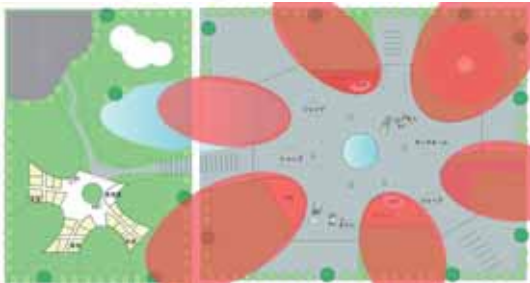
↑ 出雲大社の神紋



③図と地が反転する剣花菱の空間構成

計画地を起点に軸が放射線状に伸びていくようにした。さらに、軸に挟まれた空間や軸上にある空間に意味を持たせ、ゲシュタルト心理学的な考え方にも類似する図と地の考えを用いた空間構成とする。

図と地が交互に反転する構成は、剣花菱の構成にも整合性があり、室内空間と外部空間に関係性が生まれ、当敷地独自の空間体験ができる。



④高床式2層構成

出雲神話のヤマタノオロチや、地面から高い位置にある出雲大社本殿のように高床式の形態構成とする。

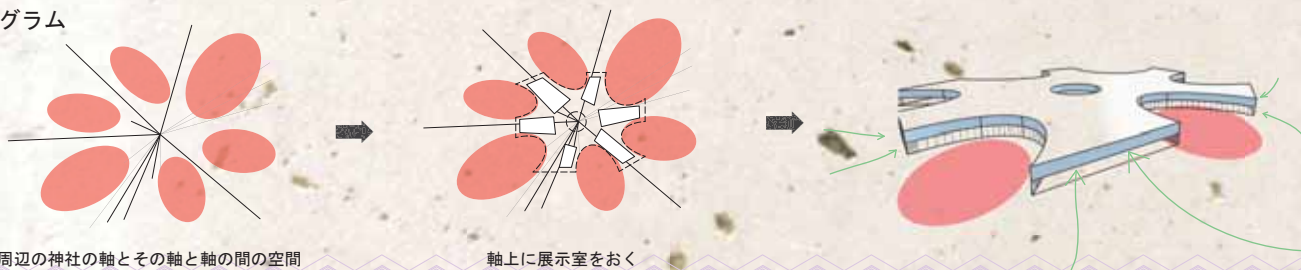


⑤鳥居と連続するフレーム構造

1階は、格子や鳥居に類似したフレームを用いることで、陰と陽、虚と実、さらに風を感じることが出来る。屋根もフレームを用いることで大社造りの屋根構造とリンクさせるような壮大な形態と繊細な骨組みをイメージした形態とする。



◆ダイアグラム



周辺の神社の軸とその軸と軸の間の空間

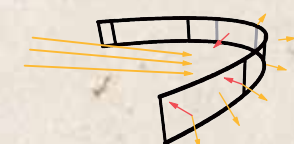
軸上に展示室をおく

1階の格子部分



格子の隙間から光を取り入れる。建物内部は格子の光と影を作ることで陰と陽を表現する。

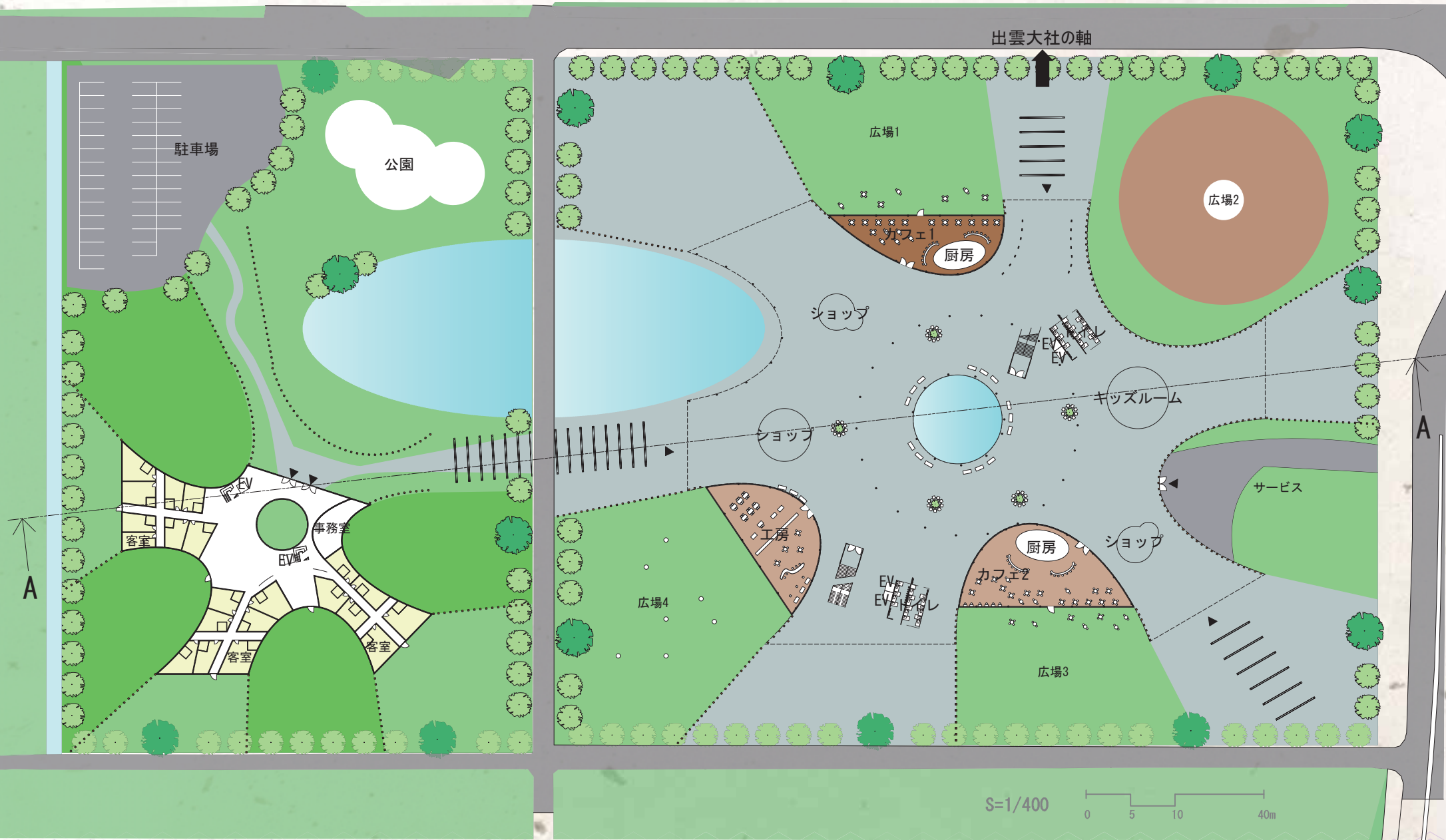
2階の回遊式廊下の部分



回遊式廊下の壁に作品を展示するため、直射日光で作品が痛まないように紫外線を取り込まないようガラスを加工する。

出雲神話-“神が在る”地の空間-

5618009 糸賀瑛耶

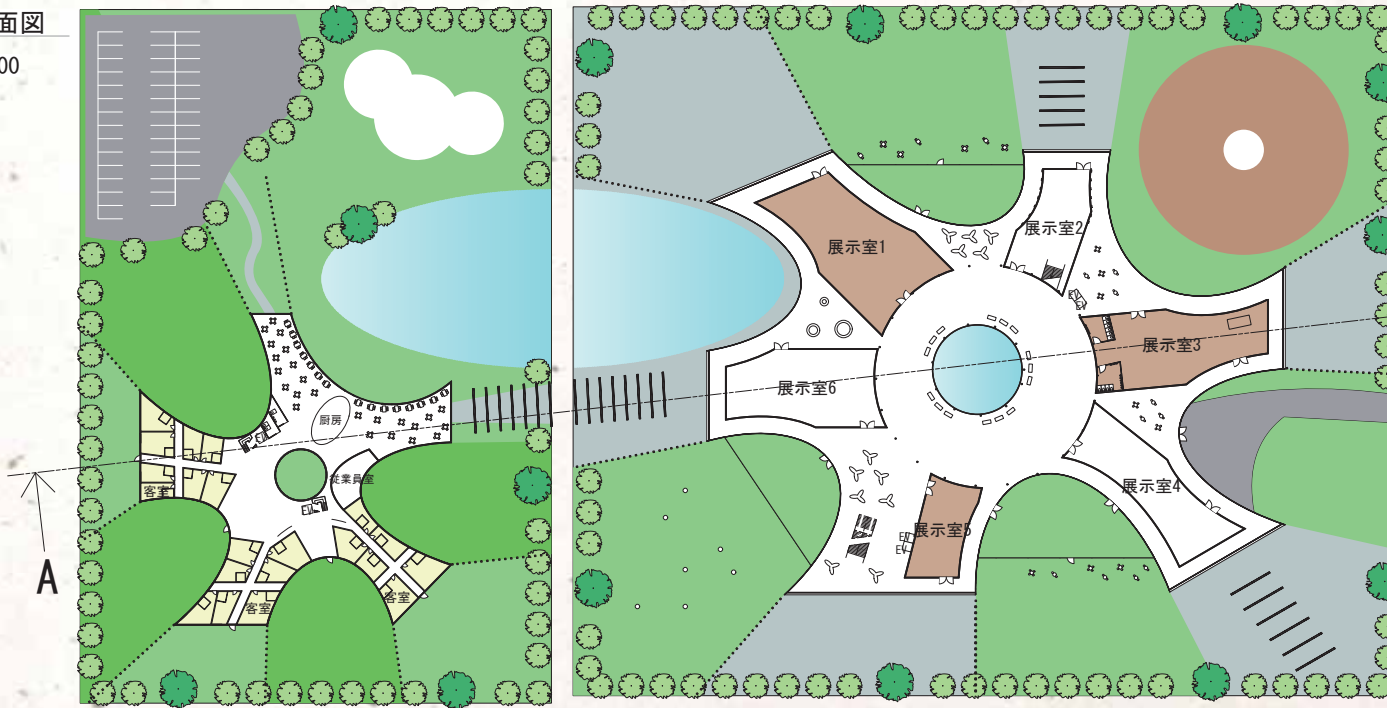


出雲神話-“神が在る”地の空間-

5618009 糸賀 瑳耶

2階平面図

S=1/600



↑ 神楽のイメージ図



↑ 神話のイメージ図

◆各展示室のコンセプト

展示室1



・新羅にある余った土地を引き寄せ、出雲の国を大きくした。その際、大きなしめ縄を三瓶山や大山にくくりつけ引き寄せられたとされている。土や砂が積み重なった出雲平野が出来た

展示室2



・大国主大神様をおまつりしているのが出雲大社である。大国主大神様は「だいこくさま」と慕われ、日本全国でおまつりされている。
・縁結びの神・稲の神として名高い「出雲大社」は、日本最古の歴史書と言われる『古事記』にその創建が記されているほどの古社で、明治時代初期まで杵築大社（きづきたいしゃ）と呼ばれていた。

展示室3



・ヤマトノオロチ、それは八つの頭を持ち、尻尾も八つあるとされている大蛇。そのヤマトノオロチと戦ったスサノノミコトである。この戦いを「ヤマトノオロチ退治伝説」とされ、神話にも神楽でも表現されている。

展示室4



・国を譲ることになってしまったオオクニヌシはその代償として神殿を建ててくれと交渉します。この神殿が出雲大社であると言われている。

展示室5



・祭神のスセリヒメノミコトが産湯としてつかわれた史蹟（岩坪）がある。古代出雲文化発祥の地として、古来、伝承されている。

展示室6



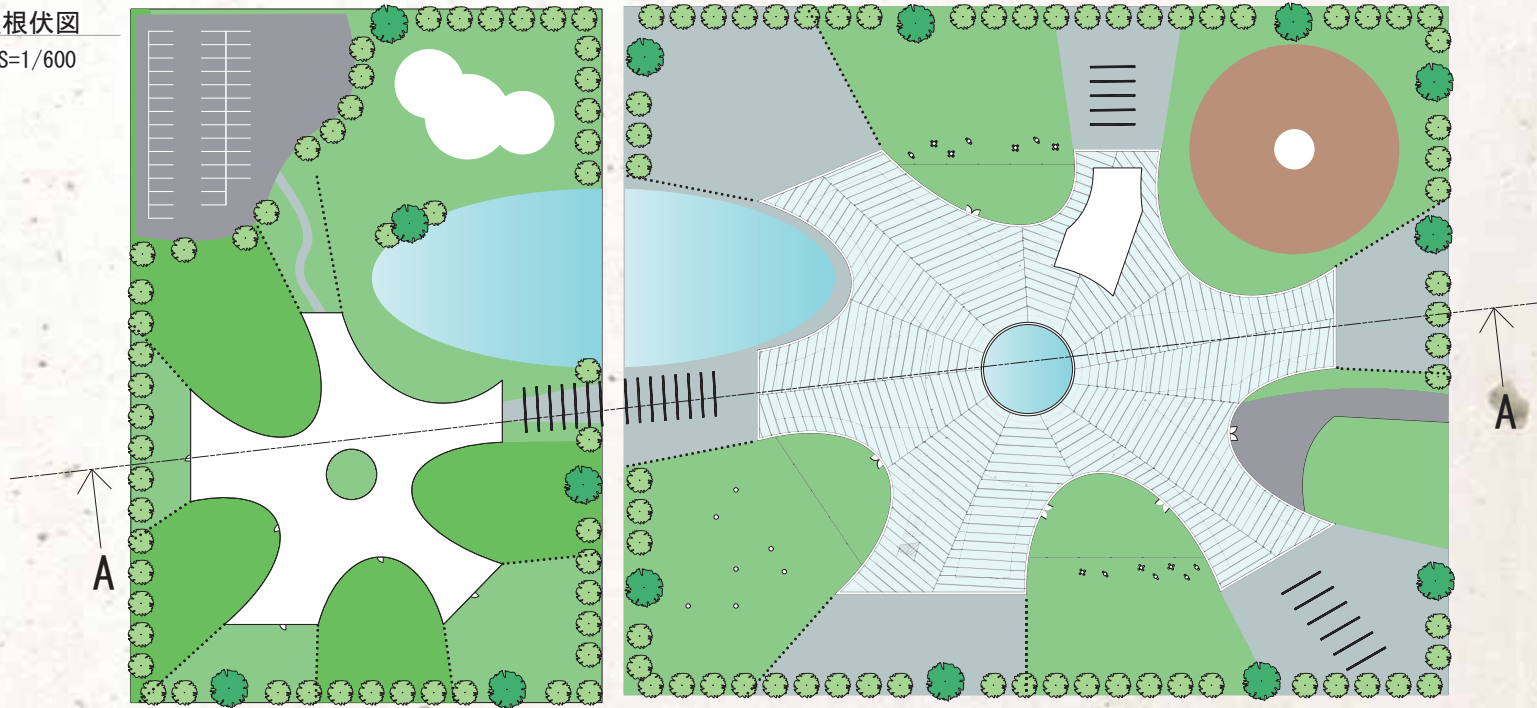
・「出雲国風土記」にも登場する美しい湖それが神西湖である。須佐之男命（すさのおのみこと）の御子で、のちに大国主命（おおくにぬしのみこと）の「妃」となられた、須世理姫の命（すせりひめのみこと）の生誕の地とされている。

出雲神話-“神が在る”地の空間-

5618009 糸賀瑛耶

屋根伏図

S=1/600



◆カフェ



出雲（島根）の郷土料理や出雲の食材を使った料理が楽しめる場

- ・しじみ
- ・出雲そば
- ・のどぐろ
- ・ぜんざい
- ・出雲生姜 などを使用し、アレンジ料理などの提供を行う。

カフェ1のコンセプト

- ・郷土料理や素材を生かしたものが楽しめる昔ながらのカフェ

カフェ2のコンセプト

- ・現代風にアレンジした料理や現代人うけするような空間

◆組子細工工房



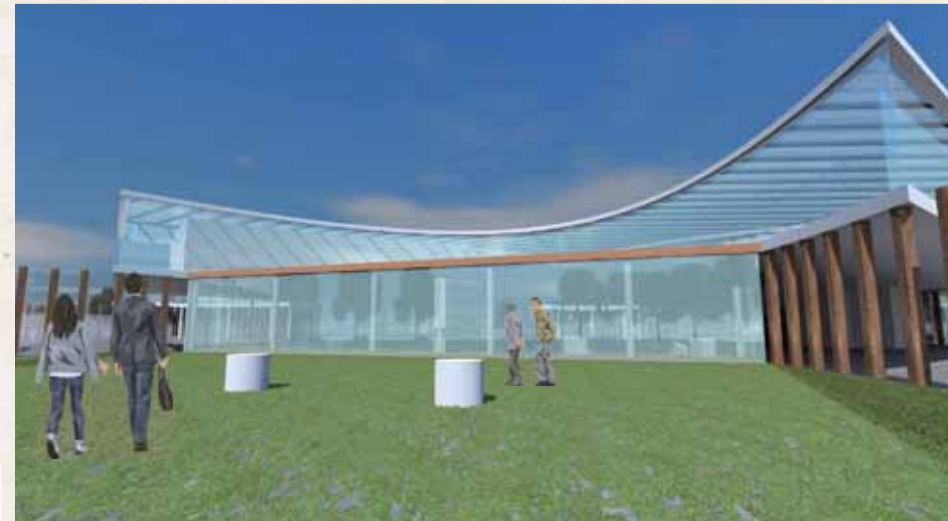
組子は色々な種類があります。ここで体験することが出来る組子の技術はこの組子を作った人が発明したものです。なので、この組子は出雲で作られています。

ここで体験することで、後継者の問題や出雲で体験するアートとして価値があると考えます。

◆ガラス細工工房

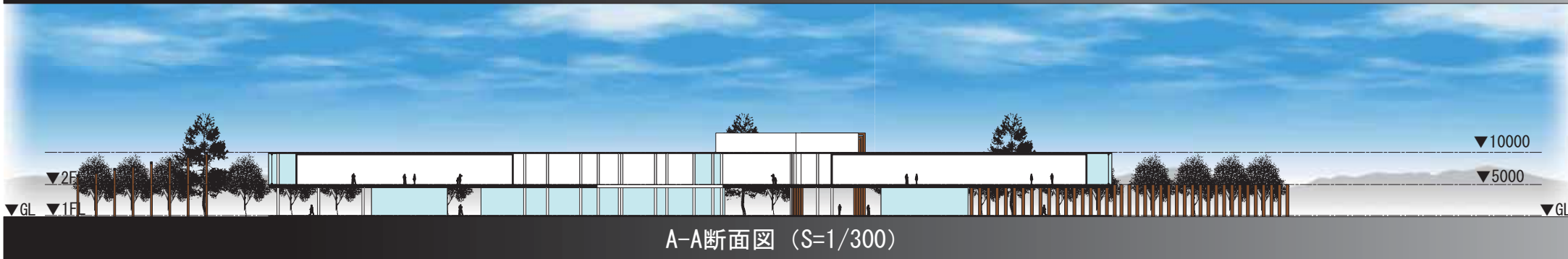
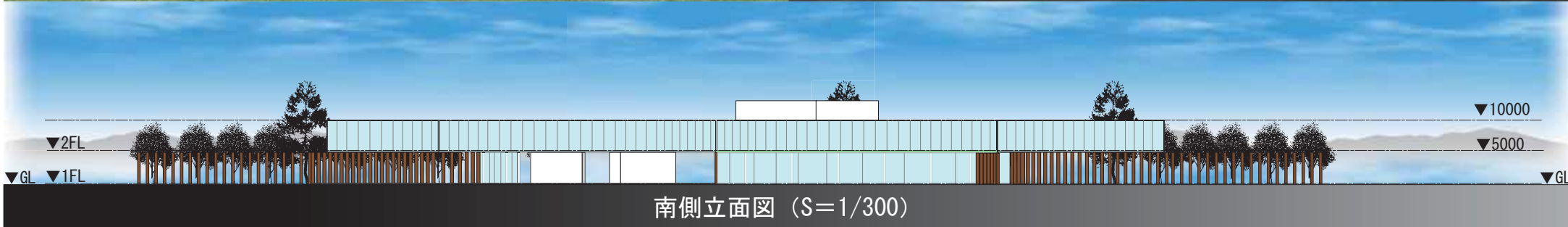


ガラス細工の作る工程や作品、自ら体験出来る空間。唯一無二のアートであり、この体験も唯一無二になるであろう。ガラスに触れたり、体験することでガラスとの「縁」や訪れたことで人と人との「縁」を結ぶ空間として設けます。



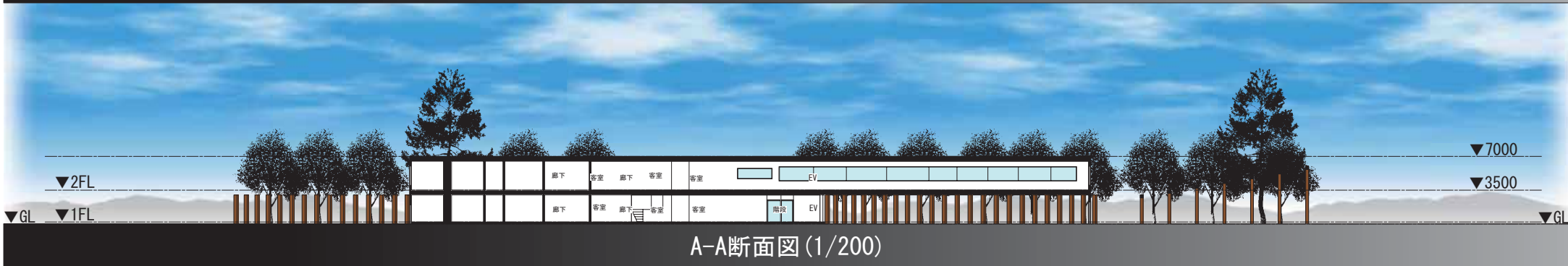
出雲神話-“神が在る”地の空間-

5618009 糸賀 瑛耶



出雲神話-“神が在る”地の空間-

5618009 糸賀瑛耶



出雲神話-“神が在る”地の空間-

5618009 糸賀瑛耶

